

平成 22 年度 第 3 回京都市環境審議会
議事要旨

日 時 平成 23 年 2 月 7 日（月） 午前 9 時 30 分～午後 11 時 45 分

場 所 京都ガーデンパレス「祇園の間」

出席者 内藤会長，青木委員，青山委員，浅岡委員，石野委員，板倉委員，遠藤委員，大久保委員，小幡委員，笠原委員，黄瀬委員，鞍掛委員，中川委員，仁連委員，布部委員，長谷川委員，**榮**委員，平沢委員，松本委員，山内委員，山舗委員，山田委員

欠席者 小川委員，奥原委員，杵本委員，武田委員，徳地委員，平松委員，船橋委員，深尾委員

内 容

1 開会

2 局長挨拶

3 議題

（1）新京都市地球温暖化対策計画の策定に係る基本的な考え方について（答申案）

- ・地球温暖化対策推進委員会委員長の仁連委員長から答申案の概要について説明。
- ・藤原地球温暖化対策室長より資料 2－1 について説明

（大久保委員）京都の特徴を生かし，独自の計画を出すという方針が明確で，戦略プロジェクトも意欲的である。

戦略プロジェクト「グリーンエコノミー創出プロジェクト」は大変重要な視点であり，市としてどのような施策を実施していくのか興味深い。「環境知恵産業のブランド化」ではどのような施策を考えているのか，具体例があれば教えて欲しい。

地域産品の利用義務化については，WTO ルールとの関係で指摘を受けた場合に，説明できるようにしておいたほうがよい。

（藤原地球温暖化対策室長）具体的な中身については，新年度から京都商工会議所様とも十分に協議の上，考えていきたい。LCA やカーボンフットプリントも活用できるかどうか不透明な部分があり，何を優れた製品・サービスとしていくのが難しい。当面，京都市が国内外へ売り出していくべき優れた環境性能の高い製品・サービスの範囲を規定し，その中から，とりわけ省エネルギーに関する製品・サービスを選びたい。中小企業者様の製品・サービスについては，プロモーション支援も含めていきたい。

市役所をはじめとする調達とリンケージできればよいが，WTO などの制約条件もあり，今後，具体的化していきたい。様々なお知恵をいただきたい。

（仁連委員長）答申案で提案しているものはすべて今すぐ着手できる熟度を持ったものではないが，一番大事なのはグリーン経済を作っていくことである。地域外の製品排除などの WTO に抵触するようなことを考えているのではなく，京都からイノベーションを起こし，それを

促進、援助するような仕組みを作りたいという趣旨である。CO₂、温室効果ガスの排出が少ない製品の評価は難しいが、客観的に評価しラベリングすることを入口として考えている。京都の産業がそういう方向へ常にイノベーションを発展させていく力をつけるのが究極の目標である。

(浅岡委員) 単体対策にならないよう議論を深めたが、十分でないところが多々あり、それが課題だと思う。グリーン経済が一番大きな柱だと打ち出したほうが京都全体のイメージとして共有しやすいと思う。「カーボン・オフセット観光」は旅行者に賦課する仕組みだが、お金の使途や、観光産業の関連者が何をするのか等、関連性が見えていない。もう少し観光に特化した形で具体化する必要がある。まだまだ縦割り、単体的なことしか書けない、そこが課題だと思う。

計画の進行体制に第三者委員会があるが、まだ点検できるような計画になっていない。ふさわしい数値目標になっているのかということもある。この計画全体をより深化させて、より統合的あるいは新しい挑戦的な計画を作っていくことを視野に置き、試行錯誤して深めながら実施していくことが見えるほうがいいのではないか。数値目標との乖離が大きいという場合、ふさわしい数値目標になっているのかという点検もまだできていない。

ただ、とても意欲的に取り組まれ、日本の自治体の取組をリードできるようなコンセプトを出していきたいと踏み出した一歩である。そういうニュアンスと、誰がどこで担うのかがもう少し見えるほうがよい。

(内藤会長) p8はわかりやすくするため、丁寧な記述が必要である。

(青山委員) 「新しい公共交通システム (LRT・BRT)」や「ロードプライシング」は非常に効果があると思われるが、「検討」と書かれている。時間的に、5年後なのか、10年後なのか、今すぐやれそうな施策と、合意形成にかなり時間がかかりそうな施策が混ざっており、もう少し整理したほうがよいと思った。

(内藤会長) 次の段階で工程表を作るため、ここでは時間的なことは書いていないという理解でよいのか。

(大島地球環境政策監) 今回は答申案をいただく段階であり、これから我々が責任をもって計画に反映し、その中でタイムスケジュールも書き込んでいく。LRT もロードプライシングも大きな効果が期待されるが、合意形成にどのぐらいの時間がかかるとわからない。ただ、「検討」とさえ書けない段階から、「検討」と書いたということを重く受け止めていただければありがたい。

(青山委員) 非常によくわかる。

(徳地委員) 森林の問題に関してたくさん取り上げていただいた。建築物の地域産木材利用が一番使用量が多くなるため、非常によい出口だと思う。

里山の視点が抜けている。もともと里山は薪炭を供給するところであり、木質ペレットを奥山から取ってくるのは効率が非常に悪い。木質ペレットの供給先としての里山、京都の景観としての里山などの記述を入れる必要がある。

(布部委員) 今、四条通で社会実験をやっているが、四条通に行くとバス停がなく、非常に腹立たしい思いをすることがある。バス停をどこに移動したのか非常にわかりにくく、もう少し

丁寧な周知をお願いしたい。歩道拡幅のためということだが、アンケートではそれほど支持されているわけではない。

今出川通の LRT について、今回は検討となっているが、以前、市長が棚上発言をされたと記憶している。その整合性は少し気になる。

EV（電気自動車）については世界的に動きがあり、家庭に充電用のコンセントをつけるのに、既存住宅では 10 万円以上かかるが、新築の場合は 1 万円で済むという話を聞いたことがある。市として早めに対応したほうが、事業者よりも浸透が早いのではないかな。

（山田委員）公共交通機関の利便性に関して、4 人だったら、バスよりもタクシーのほうが安いので利用する。ある町では 2 人から 4 人までは公共交通機関の料金が同じであり、それなら人数が多い場合でもバスに乗ることになり、すごくよい取組だと思った。

（内藤会長）どこで実施しているのか。

（山田委員）ドイツのカールスルーエである。

（２）京都市環境保全基準の改正について（答申案）

- ・京都市環境保全基準部会長の笠原部会長から資料 3－1・2 について説明。
- ・瀬川環境企画部担当部長から補足説明

（板倉委員）水生生物のところの付帯事項に書いているように、魚だけでなく、子どもたちが参加できるような水生昆虫も京都市独自に入れたらどうかという提案をしている。

（青山委員）「緑視率」は非常に面白いと思う。

（浅岡委員）「緑被率」「緑視率」について伺いたい。「緑被率」は数値を高め、「緑視率」は検討するということだが、具体的にどういう対策を想定しているのか、また、今までにどういう対策をされてきたのか。

（瀬川環境企画部担当部長）京都市全体の緑については建設局が所管している。「京都市緑の基本計画」では、目標を達成するために 52 の施策が掲載されている。公園面積の増加、街路樹等の整備、市民の方々の生垣、事業者のビルの屋上緑化などがある。

現在、「緑被率」は 35%であり、目標は 37%である。2%は面積的には非常に大きく、年間、3m以上の高木が 1 万本必要という数字である。新基本計画でも目標達成に向けた施策をうたっており、今後も努力していくという形になっている。

（内藤会長）市民から、身近なところでの意見があるのではないかな。

（山内委員）河川については、西高瀬川と山科川下流が「C」類型になっているのが気になる。

まず、教えてほしいのは「A」「B」「C」ときて何段階まであるのか。「C」類型は、人体や農作物に影響はないのか、子どもたちが水遊びしても大丈夫なのか。生活排水をどんどん流している部分をもう少し改良する必要があるのではないかな。

（内藤会長）市民感覚から大事な指摘である。

（臼居環境指導課長）国の環境基準は「AA」から「E」まであり、「E」類型は工場で使う水質に耐えるレベルである。京都市域の場合、「C」類型でおさまっており、「C」類型なら、子どもが河川に入っても特に問題はない。

下水については放流基準があり、今の BOD では 10 倍程度の濃度で流しても問題ない。

雨水の流入が少なく、下水を処理した放流水が多い箇所が、結果として「C」類型になった。せめて「B」類型にしたいという思いもあったが、ここ数年の推移を見るとクリアする見通しがなく、結果として「C」類型のまま残ったという状況である。

(内藤会長) 下水処理は難しい。水は単純にはいかない部分がある。

(山内委員) 「B」類型の下でもいいので改善を目指して欲しい。改善されていないことが一番心配である。国の基準は日本全体に適用するものであり、京都市としては地域住民のことをもっと考えて欲しい。お金がかかるから生活排水を下水に流さない人がたくさんいるが、その人達に対する働きかけが全然ない。山科川は家庭からの排水ということだが、動物汚水の公害が毎年のように起きており、余計心配である。

(臼居課長) 1点、補足したい。BODは昭和から平成になる頃は10mg/L、20mg/Lとか非常に高かったのが、今は5mg/L前後に改善されている。そう心配する状況ではない。山科の企業事業会が科研製薬の前で年1回測定しており、「A」類型は満たす状況である。

(山内委員) それは承知している。

(笠原部会長) 資料3-2のp6に過去11年分のデータがあり、数値としては改善傾向である。

(中川委員) 私は桂川の恵を受けている地域に住んでおり、きれいになってうれしく感じている。有栖川が町内会の真ん中にあり、子どもの環境教育として清掃等を行っている。環境にいい取組を子ども達から親御さんへ伝えていくことも有効と思う。以前は1人がごみを捨てると、その後にごみが増える傾向があった。今は廃油も流さないし、ごみも捨てない。きれいな状態であれば子ども達も川遊びをする。

(山田委員) 国に言うべきことだが、BODという指標自体が科学的に問題があり、今の機械を使ったTOCや、紫外線吸光度などに変えればよりはっきりするのではないか。基準に関してはこの通りでよいと思う。

(内藤会長) 専門的にはなかなか難しいところである。次の段階で議論を深めていただきたい。

(大久保委員) 「緑被率」に代えて使うのではなく、多様な指標として「緑視率」を検討することになっているが、どういう施策になるのか。緑の質を高めていくには、従来の公園整備だけでは不十分であり、民の取組、自主的な取組を協定制度等の活用も含めてどう進めるか、民地開発における多様なアセスメントを含めた取組の可能性も考慮しないといけない。

生物多様性の取組とのリンケージも重要である。緑の質・多様性なども踏まえて検討することが今後期待される。

ちょうどこの土日に、温暖化対策に全国で自主的に取り組んでいる事例の中から優れたものを表彰する「低炭素杯」があり、その中で、京都府の高校生が在来種を使った緑化の取組を発表しており、会場から好感が持たれたようだ。

(平沢委員) 「緑被率」を高めるのは、地球温暖化対策、ヒートアイランド対策になる。緑や水辺を増やす等、京都市内の温度をできるだけ上げない対策をぜひ継続してほしい。

(内藤会長) 市役所の横でミストシャワーを撒く等の努力もされていた。身近なテーマでもある。

(遠藤委員) 電気自動車のコンセント設置は新築だと安くできるという紹介があった。家を建てる時、景観条例などについては市からいろいろな資料をもらうが、環境に関する資料をいただく機会はなかった。残念である。

(内藤会長) 意外である。あつてしかるべきと思う。市から一言、説明をお聞きしたい。

(大島政策監) 25%減という高い目標を達成するには、市民の皆様・事業者の方、京都への訪問者が心を1つにして取り組むことが不可欠である。まず、今何ができるかという情報の提供に力を入れたい。本日配布の冊子のように、わかりやすく、家庭で身近に取り組める対策を掲載し、身近に置いてもらえる冊子を作り始めている。これを全市民、あるいは訪問者に見てもらえる仕組みを計画の中でしっかり位置付けたい。いつも頭に取り組が浮かぶようにならないと、ライフスタイルの転換は無理である。

(内藤会長) 対策の紹介だけでなく、実施すればどれだけ得するかも入れると実感がわく。

(大島政策監) 損得は非常に大事なインセンティブである。どう得かを合わせてお示ししたい。

(松本委員) 資料2-1の答申案はとてもよくできていると思う。駐車場附置義務制度が緩和されるということだが、郊外の公共交通機関が十分でないところは、公共交通の整備を間に合わせてから実施しないと、路上駐車が増えると思われる。

(大島政策監) 今回は街中、足の便がよいエリアを基本に考えている。街中で車を呼び込みかかないという観点で取り上げていこうと考えている。

(浅岡委員) 答申案は1つのステップということでご承認いただけるかと思うが、主体ごとに、施策を統合的に見ることが次の課題である。京都市内で建設局関係がいろいろ関わっており、別の計画がたくさんある。そのへんをどうクリアするか。近い将来すぐに動く計画を作っていかなければならない。

(3) 京の環境共生推進計画 評価検討部会における検討結果について(報告)

・評価検討部会部会長の小幡部会長から資料2-1について説明。

(内藤会長) 矢印は目立つ割に間違いやすく、難しい感じがする。

(青木委員) 二酸化炭素排出量の目標値はクリアできており、その要因は産業部門の二酸化炭素排出量減少である。景気の低迷や暖冬といった理由が書かれているが、この他に何か要因はあるのか。

(内藤会長) 外部的な要因ばかりであり、自助努力は反映されていないのか。

(藤原室長) 2008年はリーマンショックに端を発した未曾有の経済不況に伴い、いやおうなしに製造量が下がり、エネルギー使用量も下がったという面がある。たまたま2年前倒しに目標を達成した形になったが、安心しているわけではない。ただ、それが省エネ行動につながった面もあり、持続的な取組となるように支援していきたい。

(黄瀬委員) 地球温暖化対策計画は非常によくまとめられており、意欲が感じられ、キーコンセプトもたくさん入っている。これからどのような行動を、どう実行していくかが非常に大事である。特に中小企業がどのように行動したらいいのか。クレジットは大変重要な事柄であり、中小企業に対する説明を十分に行えば、いろいろな行動につながると思う。

(山舗委員) 実際に自分達がやっていることが本当に役に立っているのかという気持ちがある。やりましょうというだけでなく、こうなったという報告があればありがたい。

顔のマークは非常にわかりやすくてよいと思うが、1つずつ見ていかないといけない。何がすごく上向いていて、何が全然できていないのかが最初に一目でわかるものがあり、詳し

くはこのページに書いているという形があれば非常にわかりやすい。かつ、何が全然できていないのかと興味を持って見てもらえと思う。

(内藤会長) アドバイスを反映する余地はあるのか。

(小幡部会長) 総括表として1枚にとりまとめたいと部会でも検討したが、難しい面があった。

(内藤会長) 学術的にしっかりしていても、わかりやすくまとめるのは難しい。

(坪内局長) 市民目線でわかりやすく、どれを強調すればいいのかを、次回、平成23年度版に反映させたい。

(内藤会長) プロのご意見もいただいたほうがいい。

(山内委員) 環境保全活動プログラムは京エコロジーセンターだけでなく、他の団体や、各地域の方々も活動している。全てを集計するのは難しいかも知れないが、アジェンダ21フォーラム・ごみ減量推進会議・保健協議会・地域女性会などを含めてほしい。そうすると、横ばいではなく、どんどん上がっているのではないかな。

4月からエコまちステーションが11できた。ここで地域にアプローチして取り込まれていることが多数あるので、今後は十二分に配慮すべきではないかな。

(内藤会長) 十分ご配慮いただくということでお願いする。

2つの議題(答申案)についてはご了解いただいたということで本日の審議を終了する。後日、環境審議会として市長に答申することとする。

4 地球環境政策監挨拶

5 閉会